

2022年3月期 第2四半期 決算説明資料



2021年11月5日
株式会社 小森コーポレーション

1. 2022年3月期第2四半期業績および通期計画(P4～34)

取締役管理本部長 松野 浩一

2. 経営概況(P36～52)

代表取締役社長 持田 訓

2022年3月期第2四半期業績および通期計画



2021年11月5日
株式会社 小森コーポレーション

決算概要 P/L

(単位:億円)

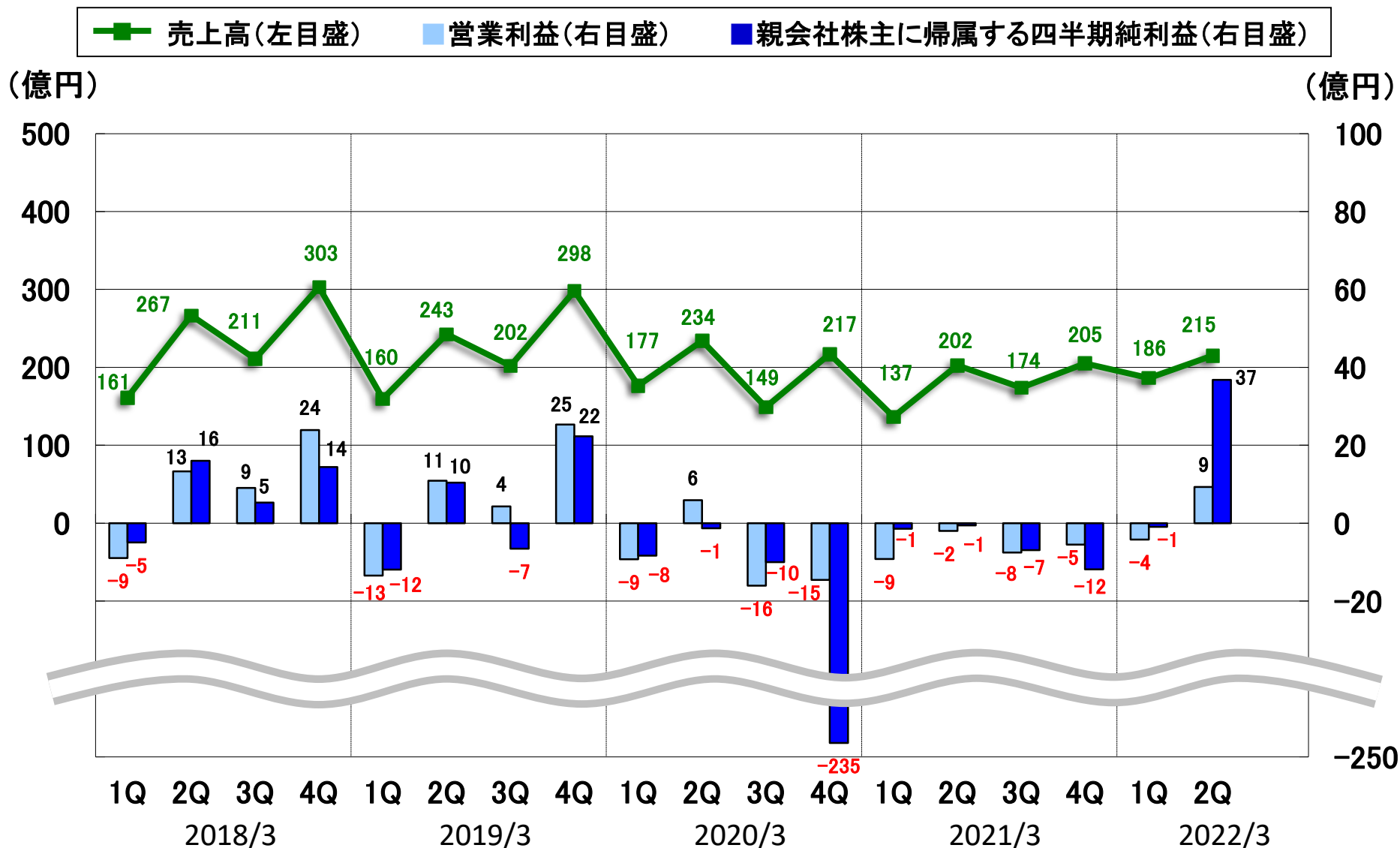
		2022/3 上期実績	2021/3 上期実績	差額	前年 同期比	2022/3 上期計画	差額	計画比
受注高		495	309	186	160%	450	45	110%
売上高		401	339	62	118%	420	△19	96%
営業利益		5	△11	16	-	3	2	170%
経常利益		9	△7	16	-	0	9	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益		36	△2	38	-	28	8	128%
平均レート(円)	US\$	110.18	106.68	/		105.00	/	
	EUR	130.97	121.36			120.00		
期末レート(円)	US\$	111.92	105.80			105.00		
	EUR	129.86	124.17			120.00		

主な資産・負債

(単位:億円)

	当上期末 2021.9.30	前期末 2021.3.31	差額
現金・預金	481	469	12
売上債権	131	159	△28
有価証券	139	85	54
棚卸資産	341	318	23
うち製品	151	138	12
有形固定資産	159	163	△4
無形固定資産	41	45	△4
仕入債務	157	125	32
短期借入金	2	9	△7
社債	100	100	0
長期借入金	4	4	△1
株主資本	986	956	30
総資産	1,505	1,444	60

売上高・損益の推移



地域別受注高

(単位：億円)

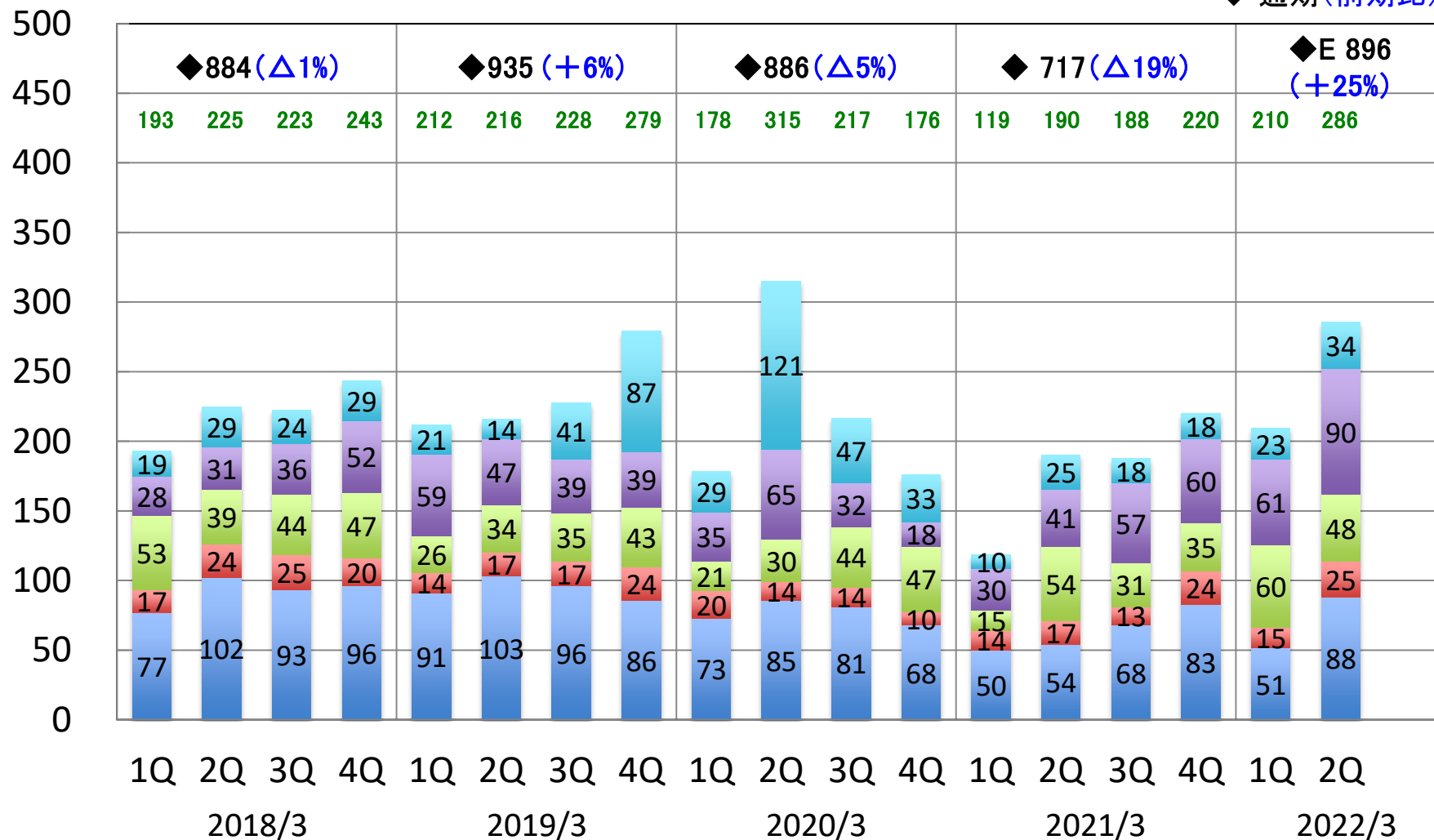
	2022/3 上期実績	2021/3 上期実績	前年 同期比
日 本	140	104	134%
北 米	40	31	130%
(百万ドル)	(37)	(29)	(126%)
欧 州	108	68	158%
(百万ユーロ)	(82)	(56)	(146%)
中 華 圏	151	71	214%
そ の 他 地 域	56	35	163%
合 計	495	309	160%

地域別受注高

■ 日本 ■ 北米 ■ 欧州 ■ 中華圏 ■ その他地域

(億円)

◆ 通期(前期比)



品目別受注高

(単位：億円)

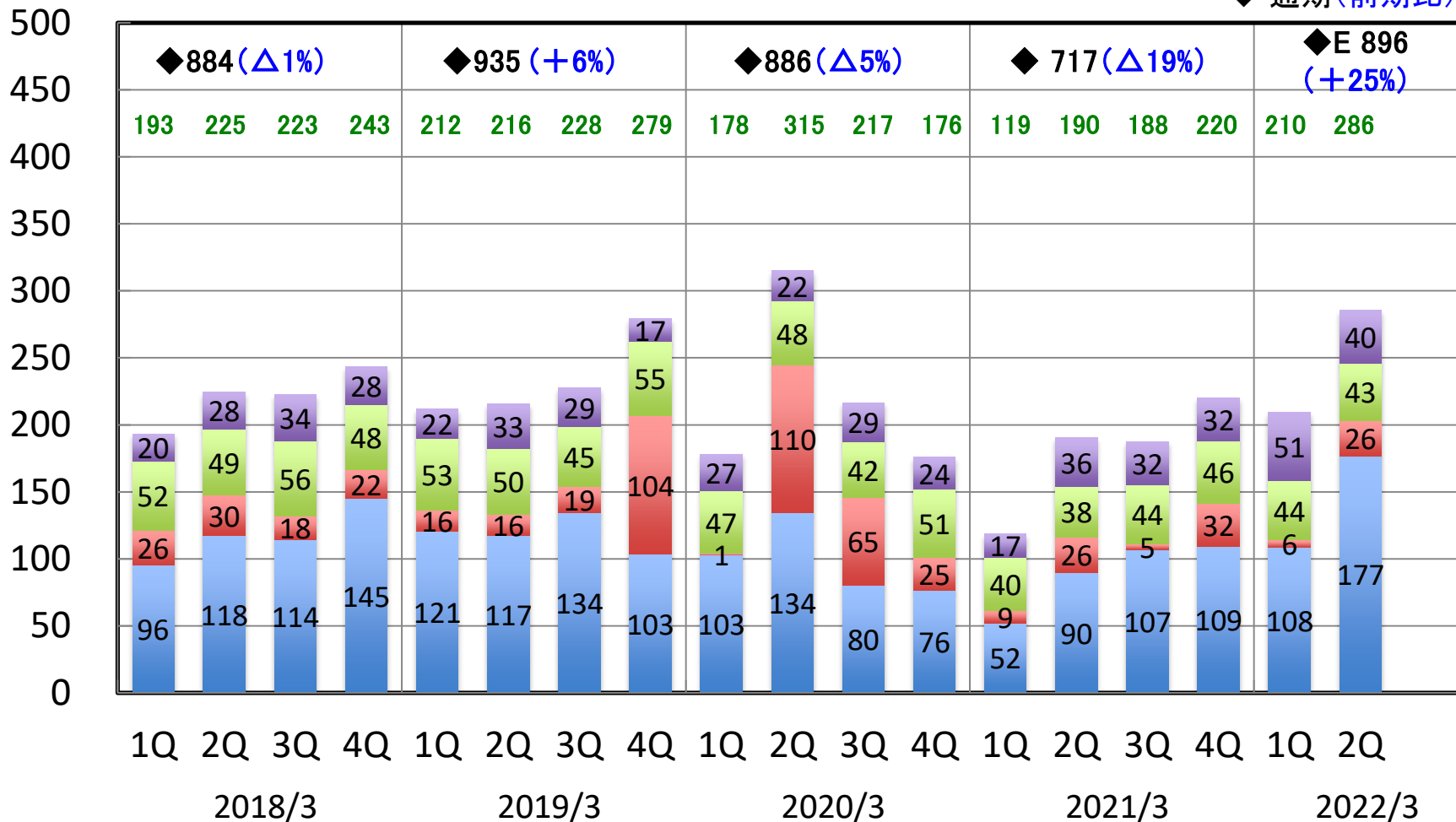
	2022/3 上期実績	2021/3 上期実績	前年 同期比
枚 葉 機	285	142	201%
輪転機・証券印刷機	32	36	90%
中古機・部品修理	87	77	112%
DPS・PE・その他	91	54	170%
合 計	495	309	160%

品目別受注高

■ 枚葉機 ■ 輪転機・証券印刷機 ■ 中古・部品修理 ■ DPS・PE・その他

(億円)

◆ 通期(前期比)

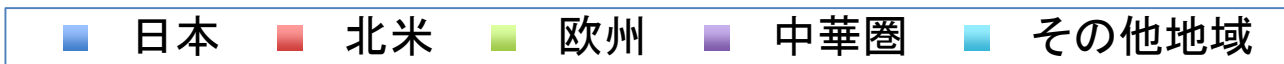


地域別売上高

(単位：億円)

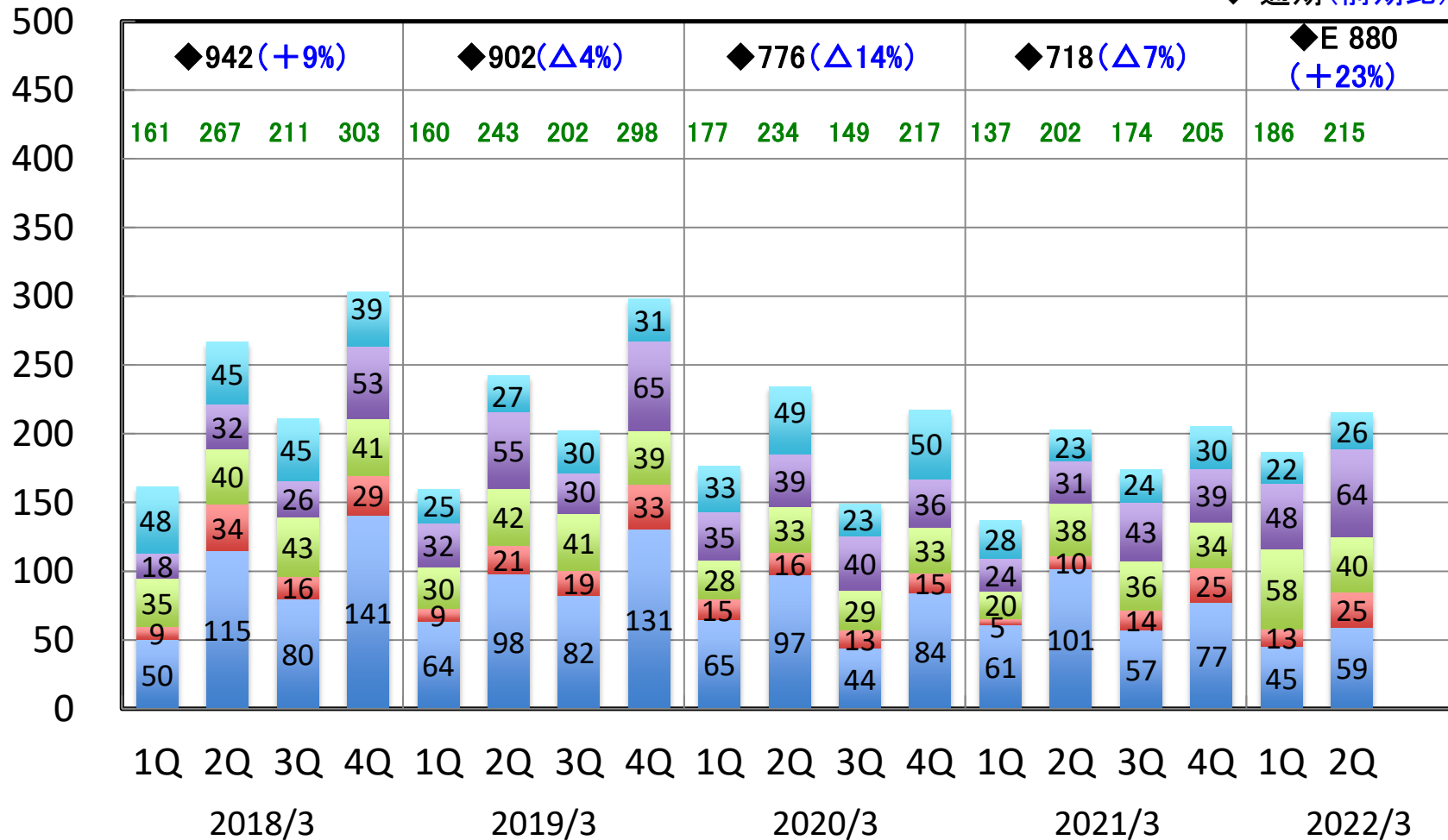
	2022/3 上期実績	2021/3 上期実績	前年 同期比
日 本	105	162	65%
北 米	38	14	263%
(百万ドル)	(34)	(14)	(254%)
欧 州	98	58	169%
(百万ユーロ)	(75)	(48)	(157%)
中 華 圏	112	54	207%
そ の 他 地 域	49	50	97%
合 計	401	339	118%

地域別売上高



(億円)

◆ 通期(前期比)



品目別売上高

(単位：億円)

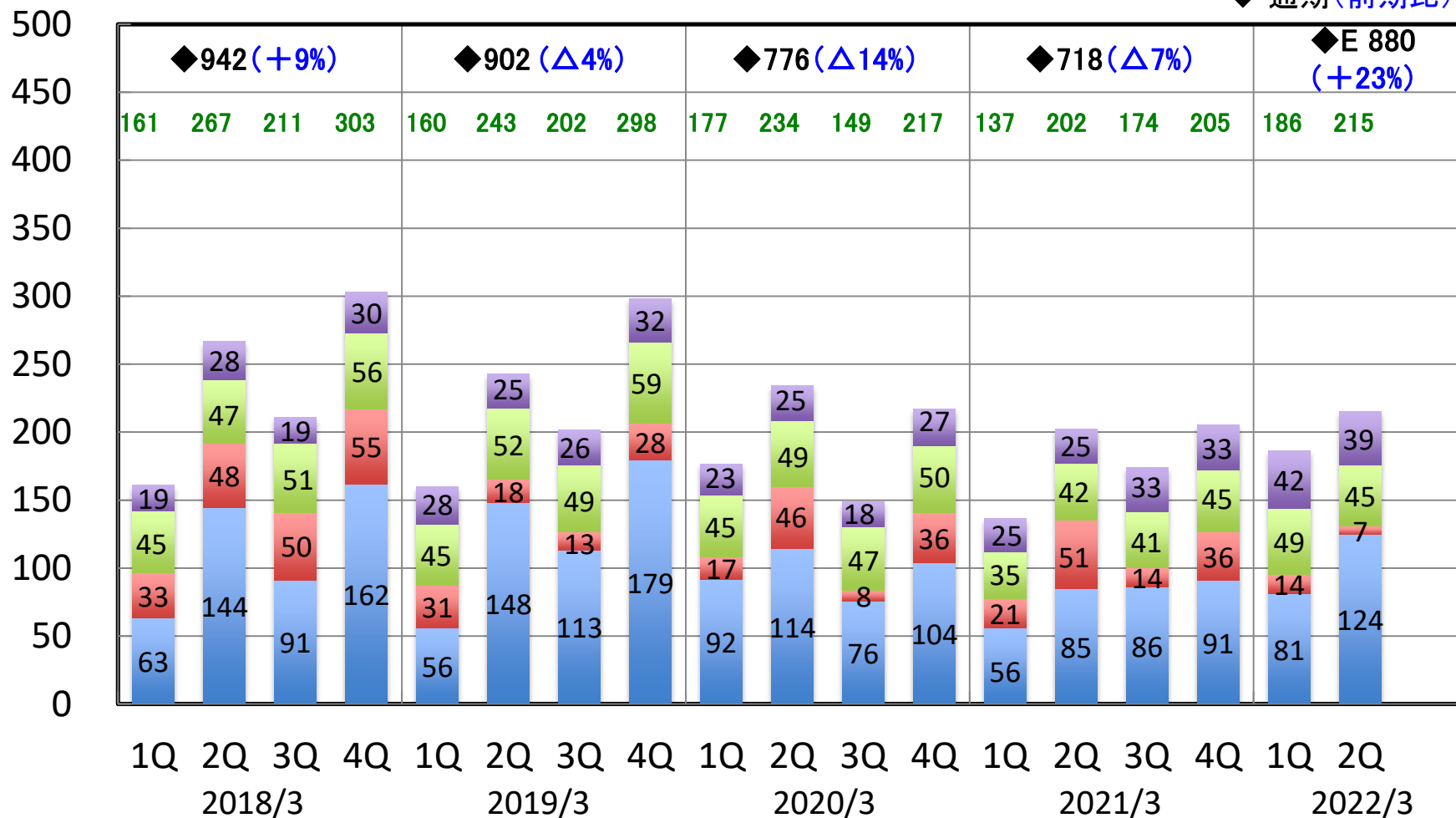
	2022/3 上期実績	2021/3 上期実績	前年 同期比
枚 葉 機	206	141	146%
輪転機・証券印刷機	20	72	28%
中古機・部品修理	94	76	123%
DPS・PE・その他	82	50	163%
合 計	401	339	118%

品目別売上高

■ 枚葉機 ■ 輪転機・証券印刷機 ■ 中古・部品修理 ■ DPS・PE・その他

(億円)

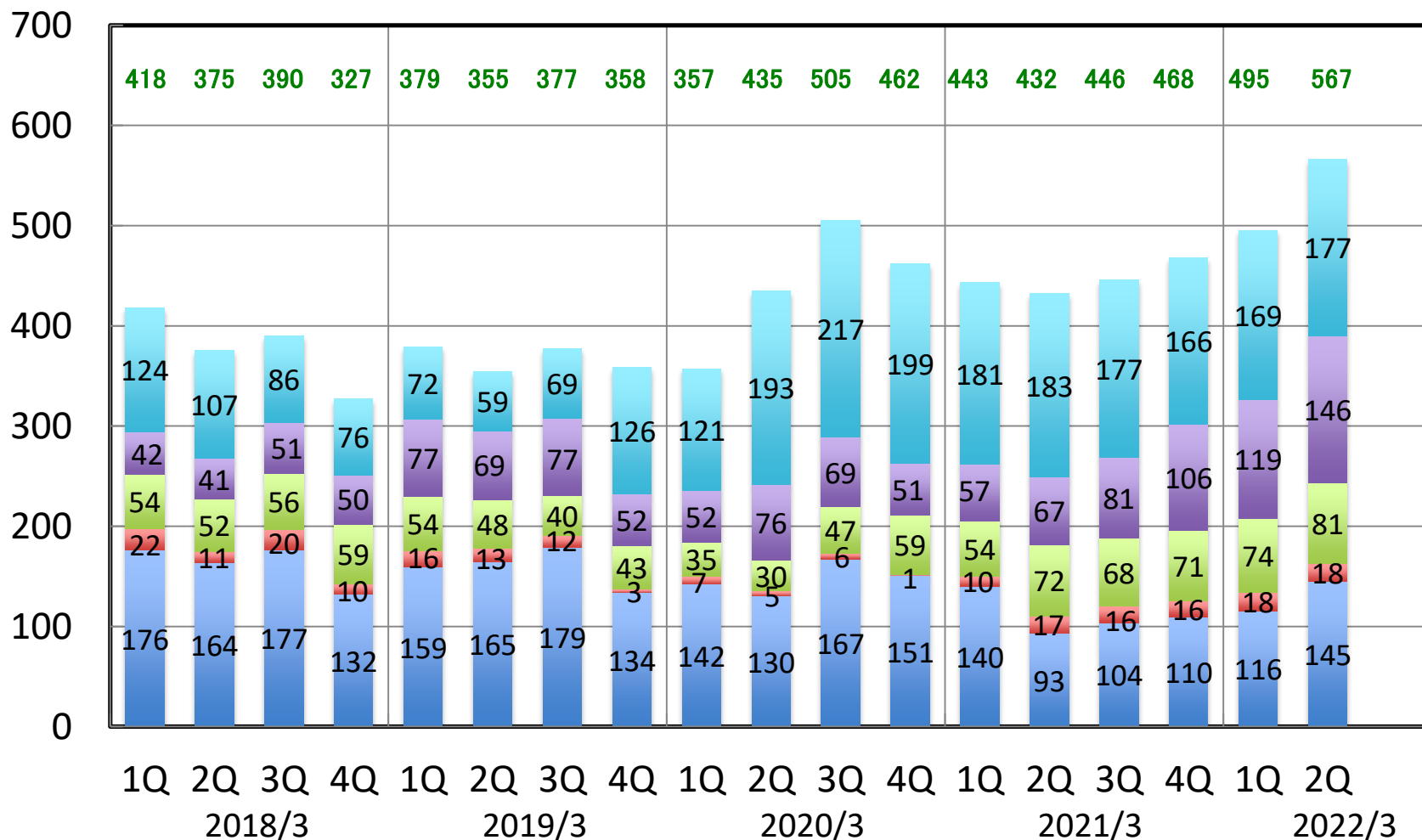
◆ 通期(前期比)



受注残高の推移

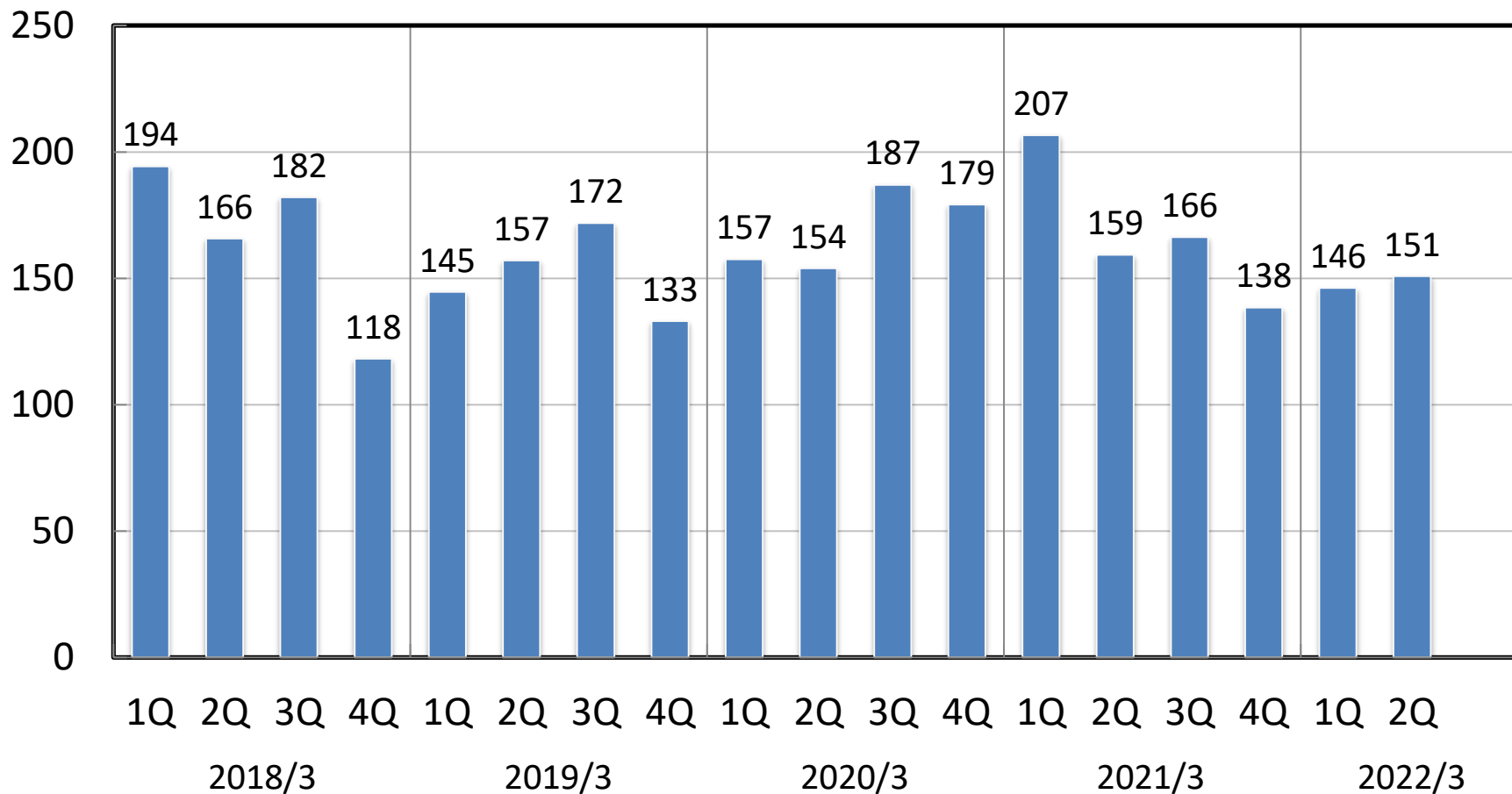
(億円)

■ 日本 ■ 北米 ■ 欧州 ■ 中華圏 ■ その他地域

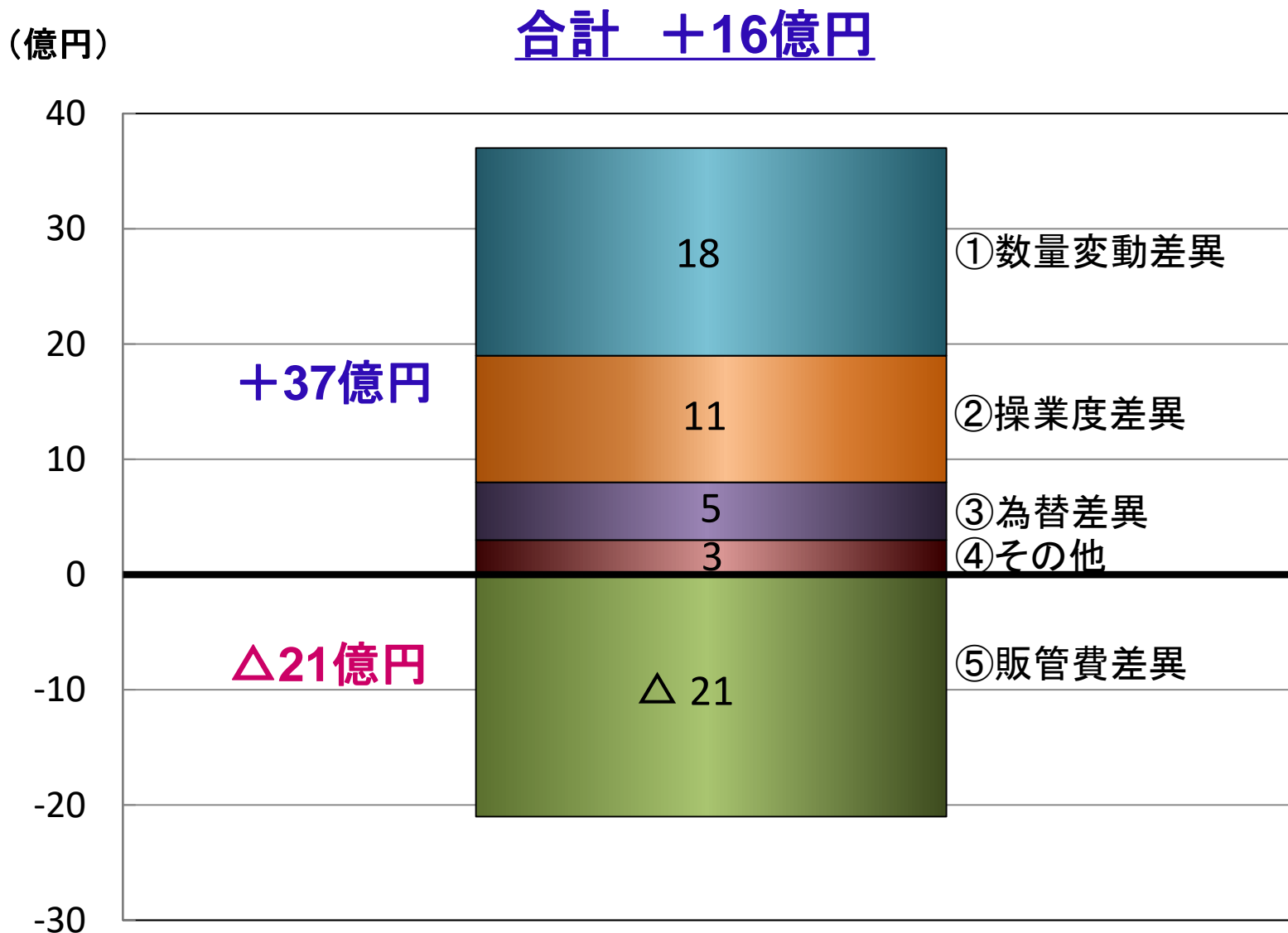


製品在庫の推移(原価ベース)

(億円)



上期営業損益の変動要因(対 前年同期比)



業績見通し

(単位:億円)

		2022/3 上期実績	<2Q修正> 2022/3 下期計画	<2Q修正> 2022/3 通期計画	2021/3 前期実績	差額	前期比
受注高		495	401	896	717	179	125%
売上高		401	479	880	718	162	123%
営業利益		5	5	10	△23	33	-
経常利益		9	1	10	△11	21	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益		36	0	36	△21	57	-
平均レート(円)	US\$	110.18	105.00	107.79	106.17	/	/
	EUR	130.97	120.00	125.91	123.73		
期末レート(円)	US\$	111.92	105.00	105.00	110.71		
	EUR	129.86	120.00	120.00	129.80		

地域別受注高 予想

(単位:億円)

	2022/3 上期実績	<2Q修正> 2022/3 下期計画	<2Q修正> 2022/3 通期計画	2021/3 前期実績	差額	前期比
日 本	140	151	290	256	35	114%
北 米	40	37	77	68	10	114%
(百万ドル)	(37)	(35)	(72)	(64)	(8)	(113%)
欧 州	108	97	204	134	70	152%
(百万ユーロ)	(82)	(80)	(162)	(108)	(54)	(150%)
中 華 圏	151	56	207	188	19	110%
そ の 他 地 域	56	80	137	71	66	193%
小 計	495	421	916	717	199	128%
部品供給不安の影響	-	△20	△20	-	△20	-
合 計	495	401	896	717	179	125%

品目別受注高 予想

(単位:億円)

	2022/3 上期実績	<2Q修正> 2022/3 下期計画	<2Q修正> 2022/3 通期計画	2021/3 前期実績	差額	前期比
枚 葉 機	285	161	447	358	89	125%
輪転機・証券印刷機	32	86	118	73	46	163%
中古機・部品修理	87	95	181	168	13	108%
DPS・PE・その他	91	79	170	118	52	144%
小 計	495	421	916	717	199	128%
部品供給不安の影響	-	△20	△20	-	△20	-
合 計	495	401	896	717	179	125%

地域別売上高 予想

(単位:億円)

	2022/3 上期実績	<2Q修正> 2022/3 下期計画	<2Q修正> 2022/3 通期計画	2021/3 前期実績	差額	前期比
日 本	105	159	263	297	△33	89%
北 米	38	39	77	54	23	143%
(百万ドル)	(34)	(37)	(71)	(51)	(21)	(141%)
欧 州	98	101	199	128	71	156%
(百万ユーロ)	(75)	(83)	(158)	(103)	(55)	(153%)
中 華 圏	112	101	213	136	77	157%
そ の 他 地 域	49	94	143	104	38	137%
小 計	401	494	895	718	177	125%
部品供給不安の影響	-	△15	△15	-	△15	-
合 計	401	479	880	718	162	123%

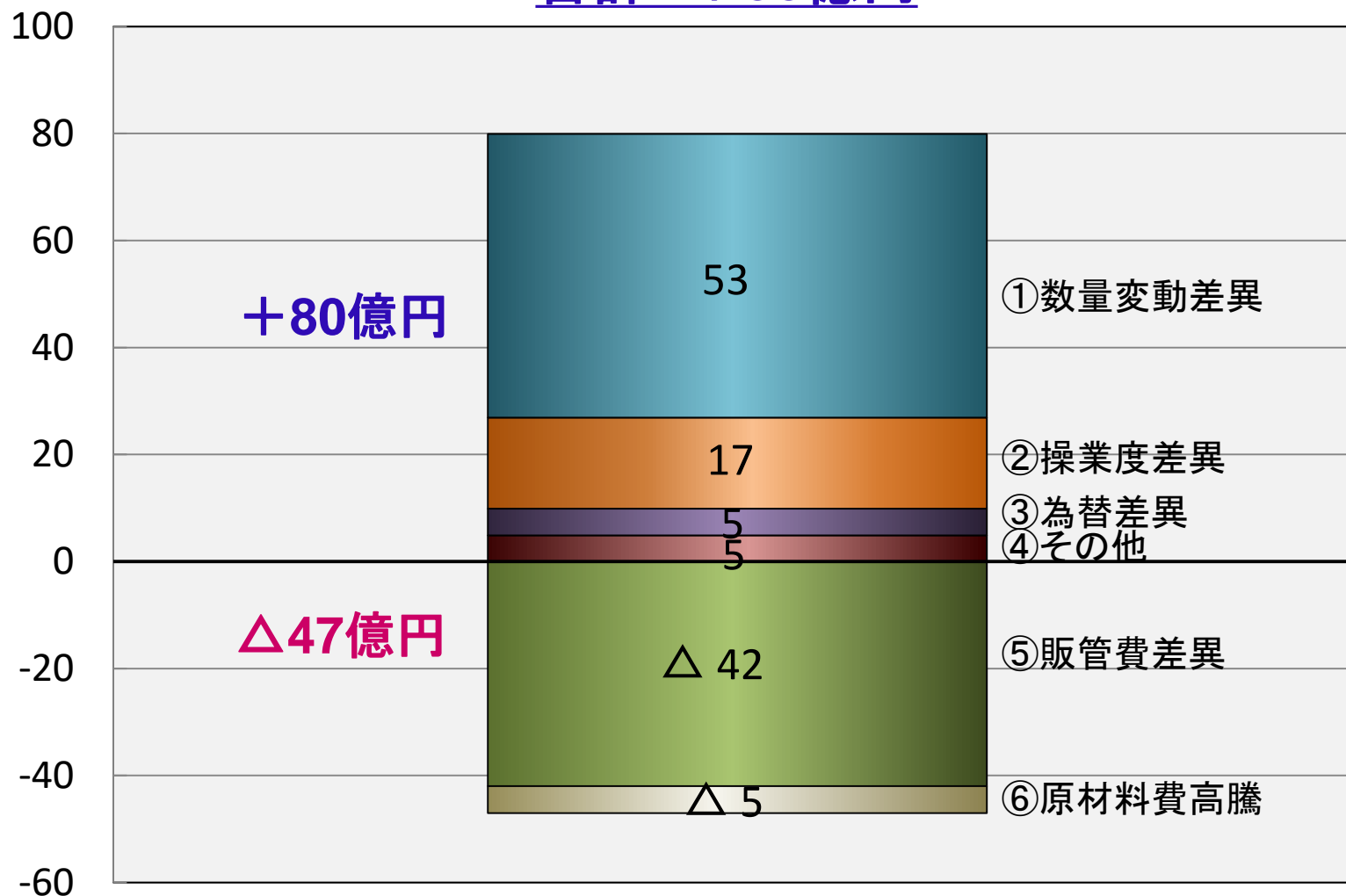
品目別売上高 予想

(単位:億円)

	2022/3 上期実績	<2Q修正> 2022/3 下期計画	<2Q修正> 2022/3 通期計画	2021/3 前期実績	差額	前期比
枚 葉 機	206	237	443	318	126	140%
輪転機・証券印刷機	20	90	110	122	△12	90%
中古機・部品修理	94	85	179	163	17	110%
DPS・PE・その他	82	81	163	116	47	140%
小 計	401	494	895	718	177	125%
部品供給不安の影響	-	△15	△15	-	△15	-
合 計	401	479	880	718	162	123%

通期営業損益(予想)の変動要因(対 前期比)

(億円)

合計 +33億円

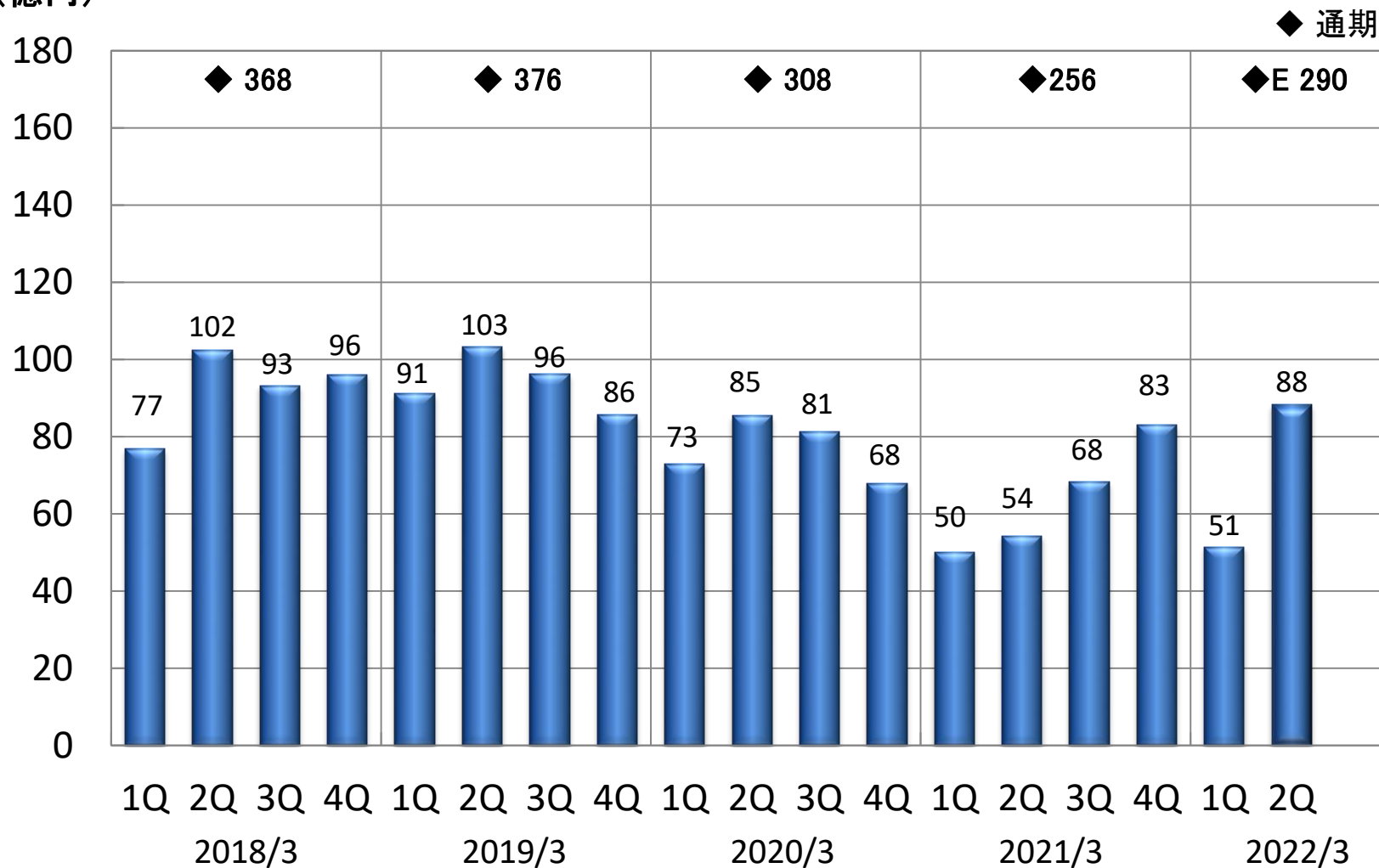
設備投資・減価償却費・開発費

(単位:百万円)

	2018/3	2019/3	2020/3	2021/3	2022/3 上期	2022/3 予想
従業員数(名)	2,227	2,335	2,363	2,686	2,647	2,670
人件費	20,245	20,908	20,386	20,199	11,283	21,700
設備投資額	1,201	1,334	1,678	1,394	547	2,200
減価償却費	1,889	1,965	2,304	1,604	892	1,720
研究開発費	4,785	4,740	4,899	4,002	2,087	4,300
(売上高比)	(5.1%)	(5.3%)	(6.3%)	(5.6%)	(5.2%)	(4.9%)

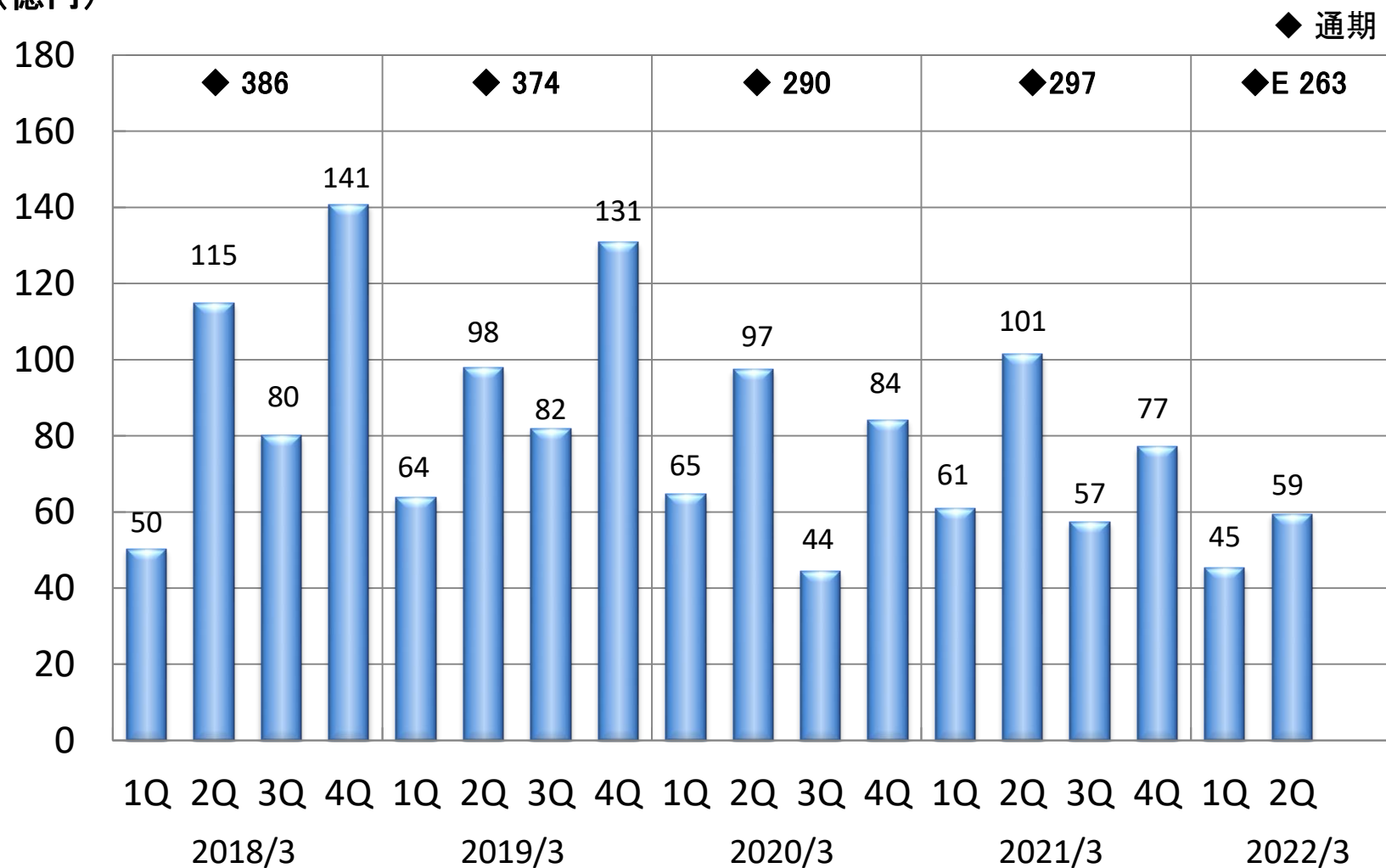
日本 受注高

(億円)



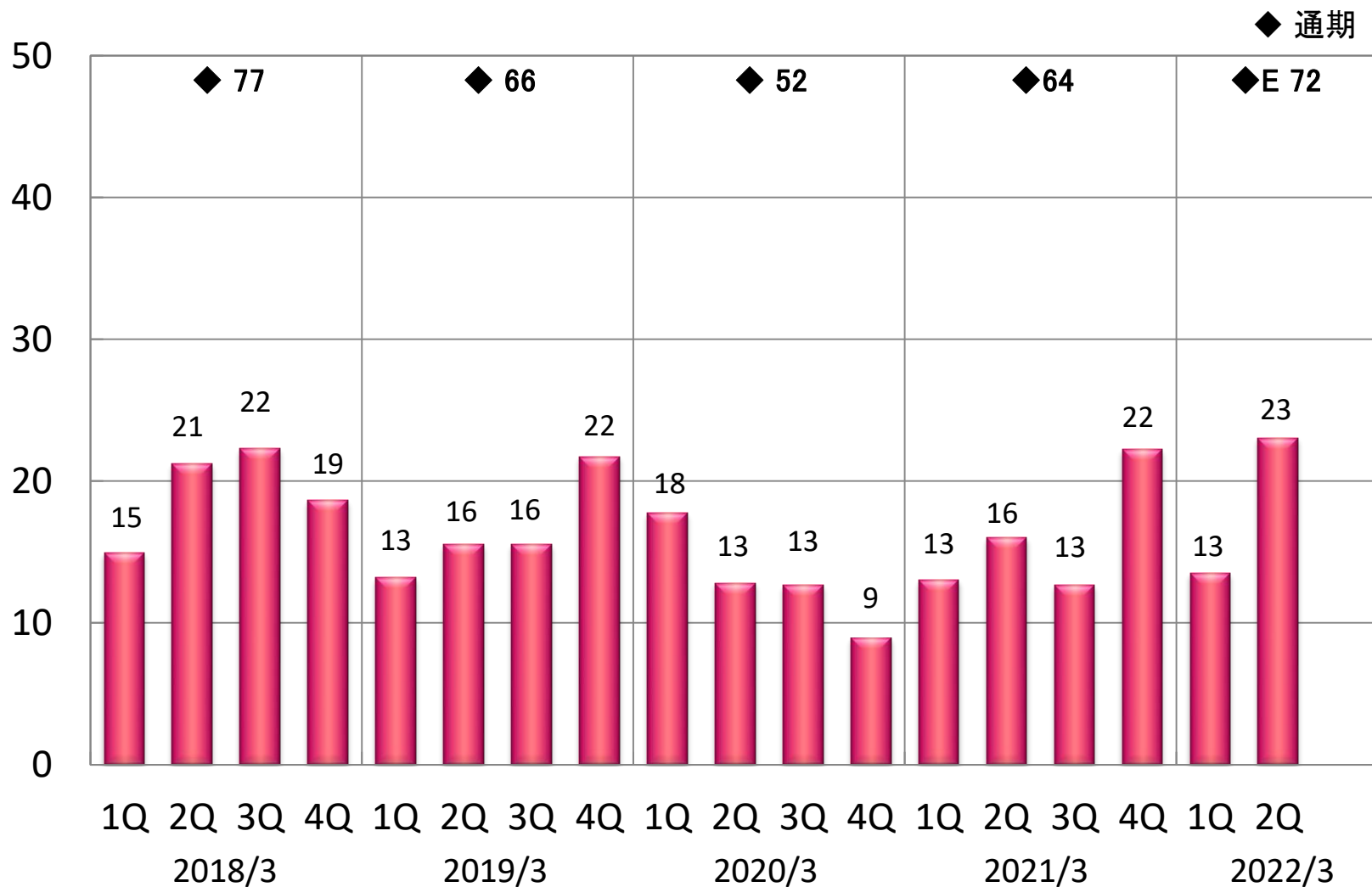
日本売上高

(億円)



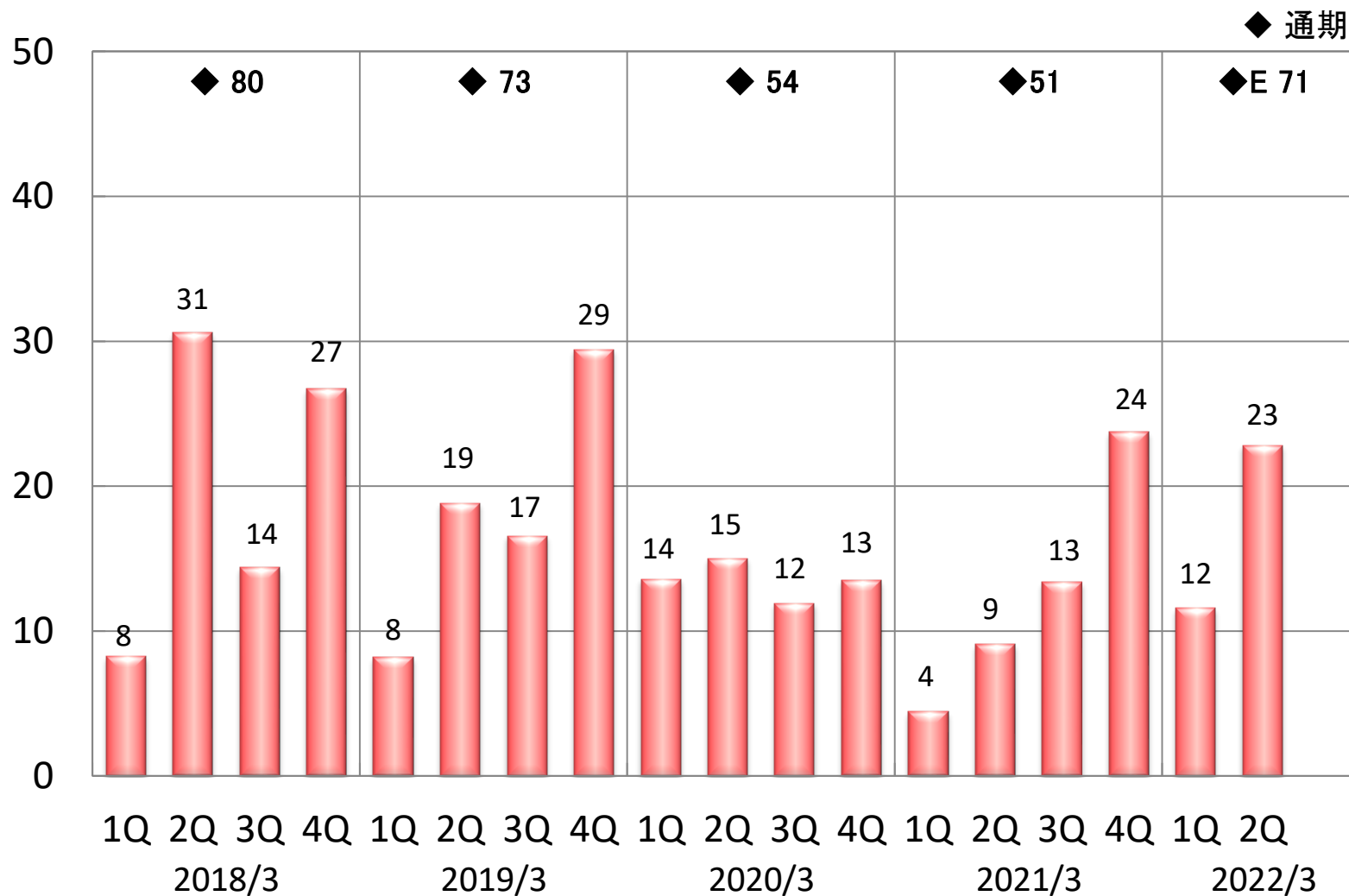
北米 受注高

(million \$)



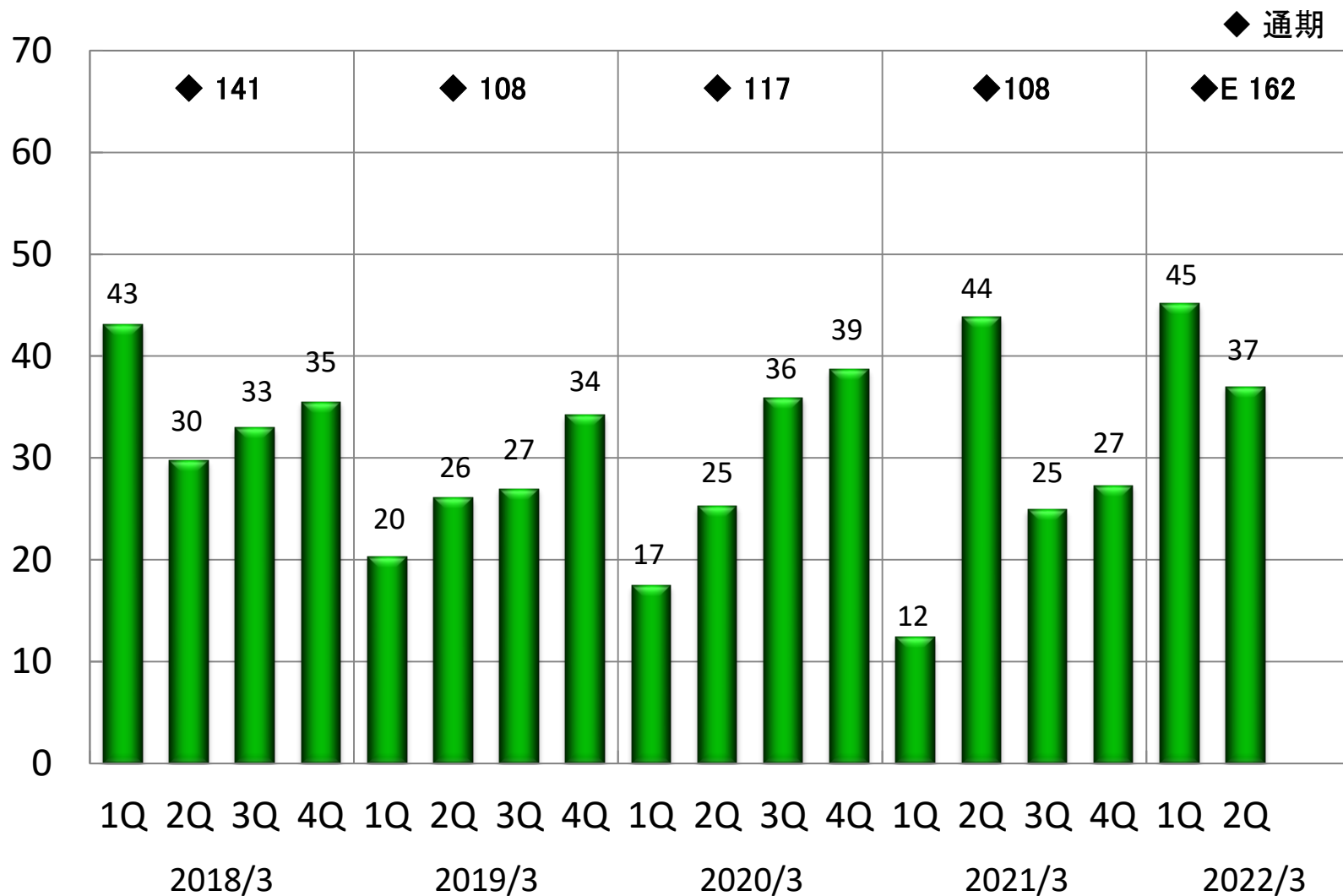
北米売上高

(million \$)



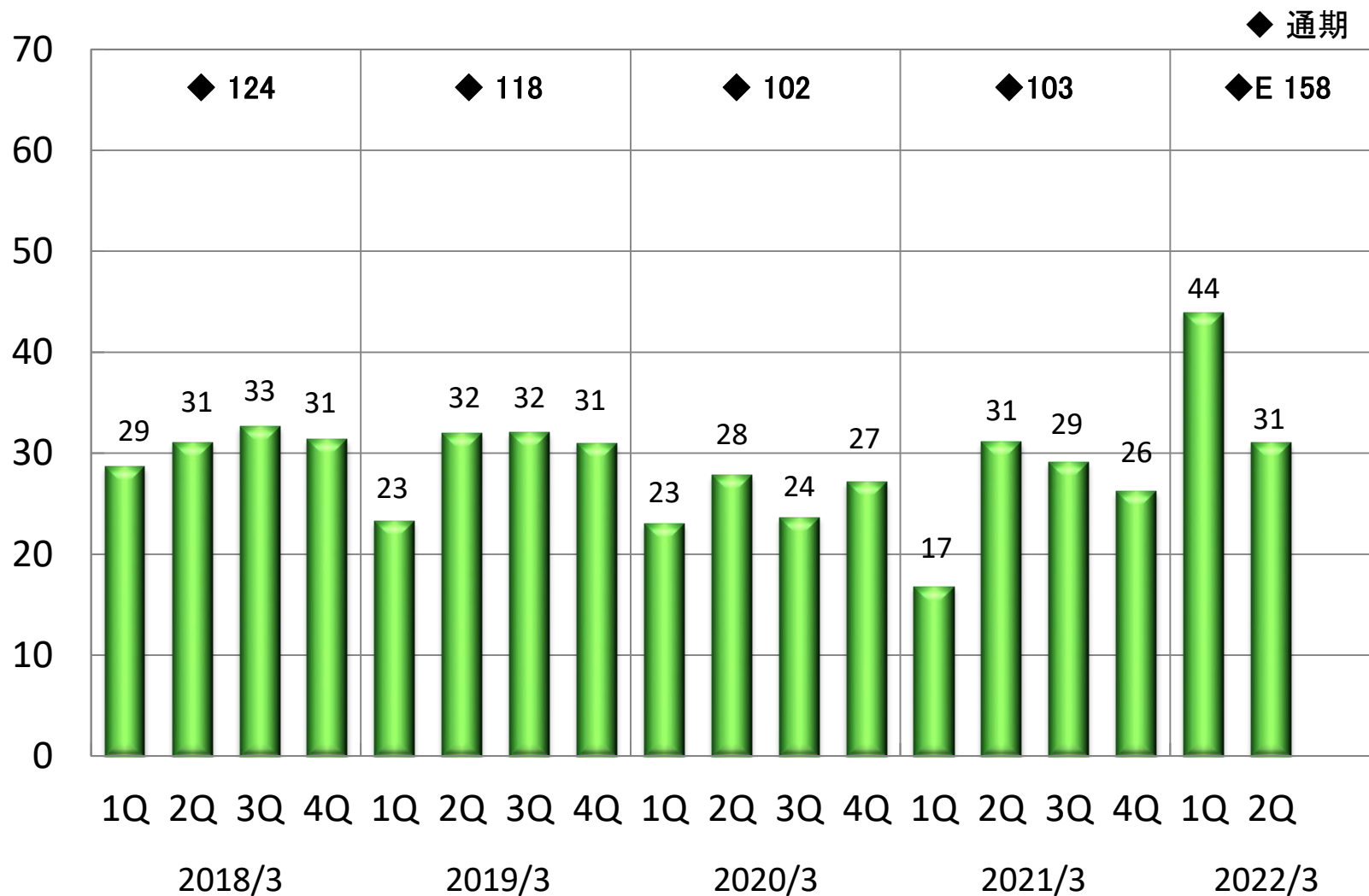
欧州 受注高

(million EUR)



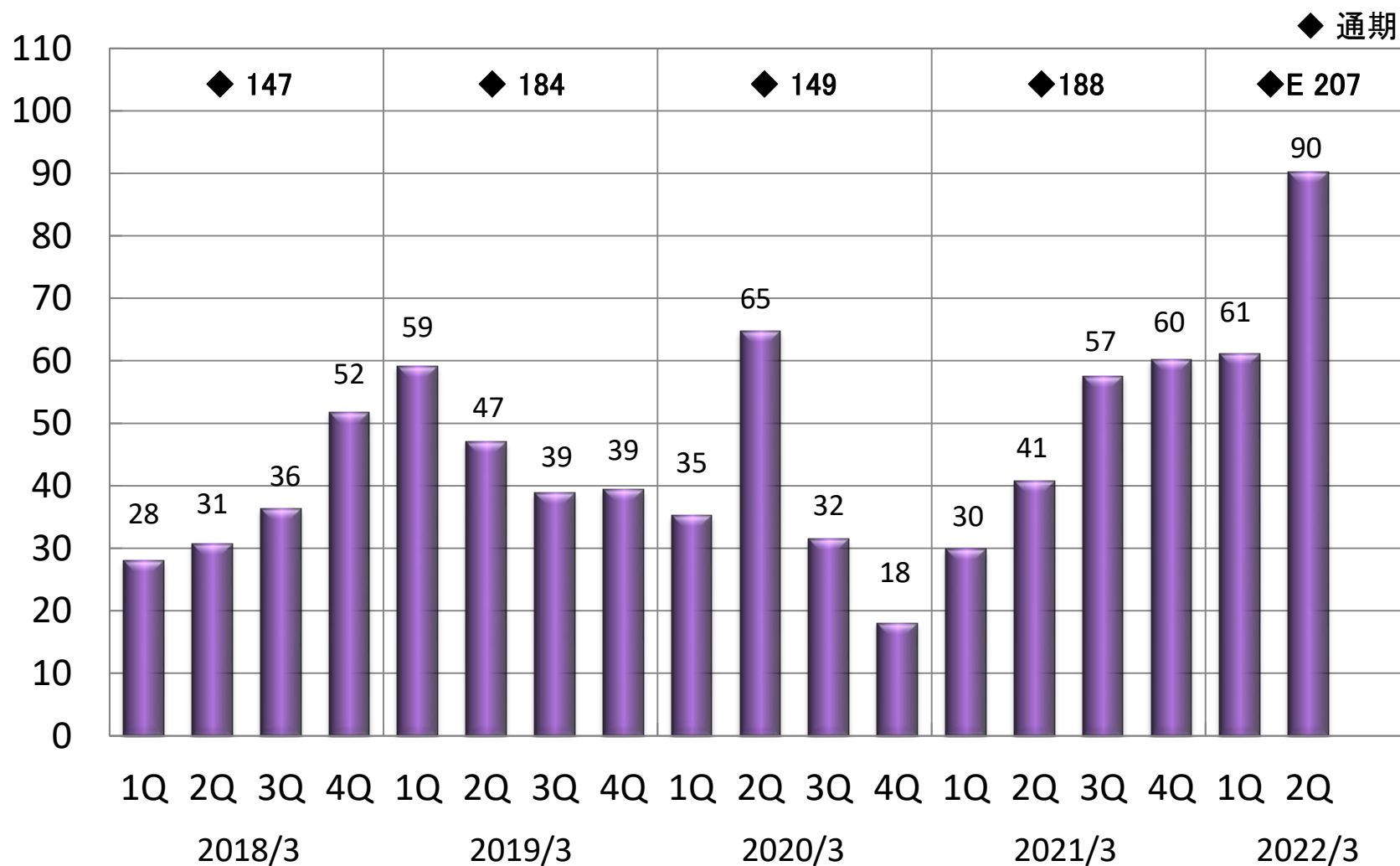
欧州売上高

(million EUR)



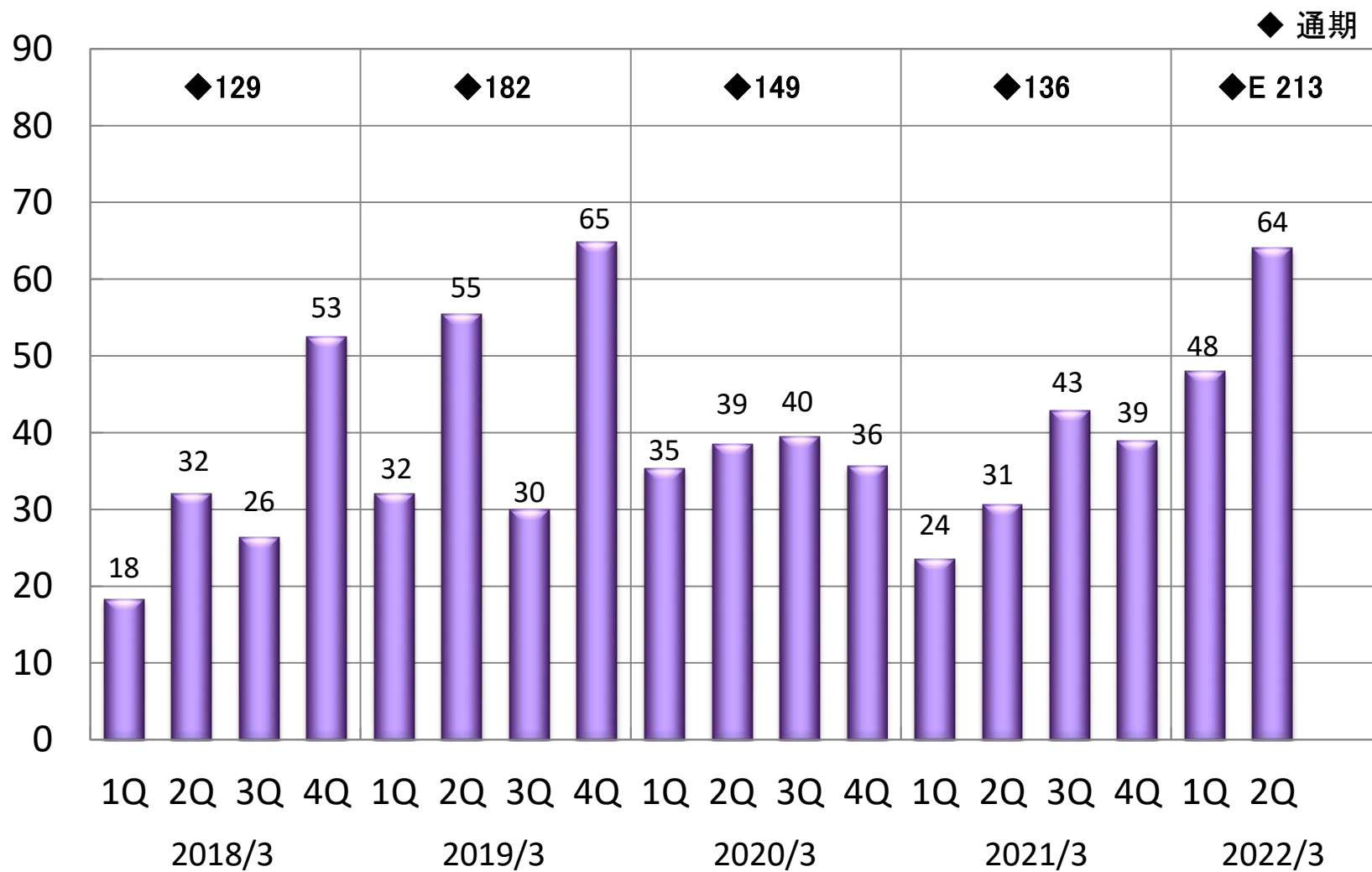
中華圏 受注高

(億円)



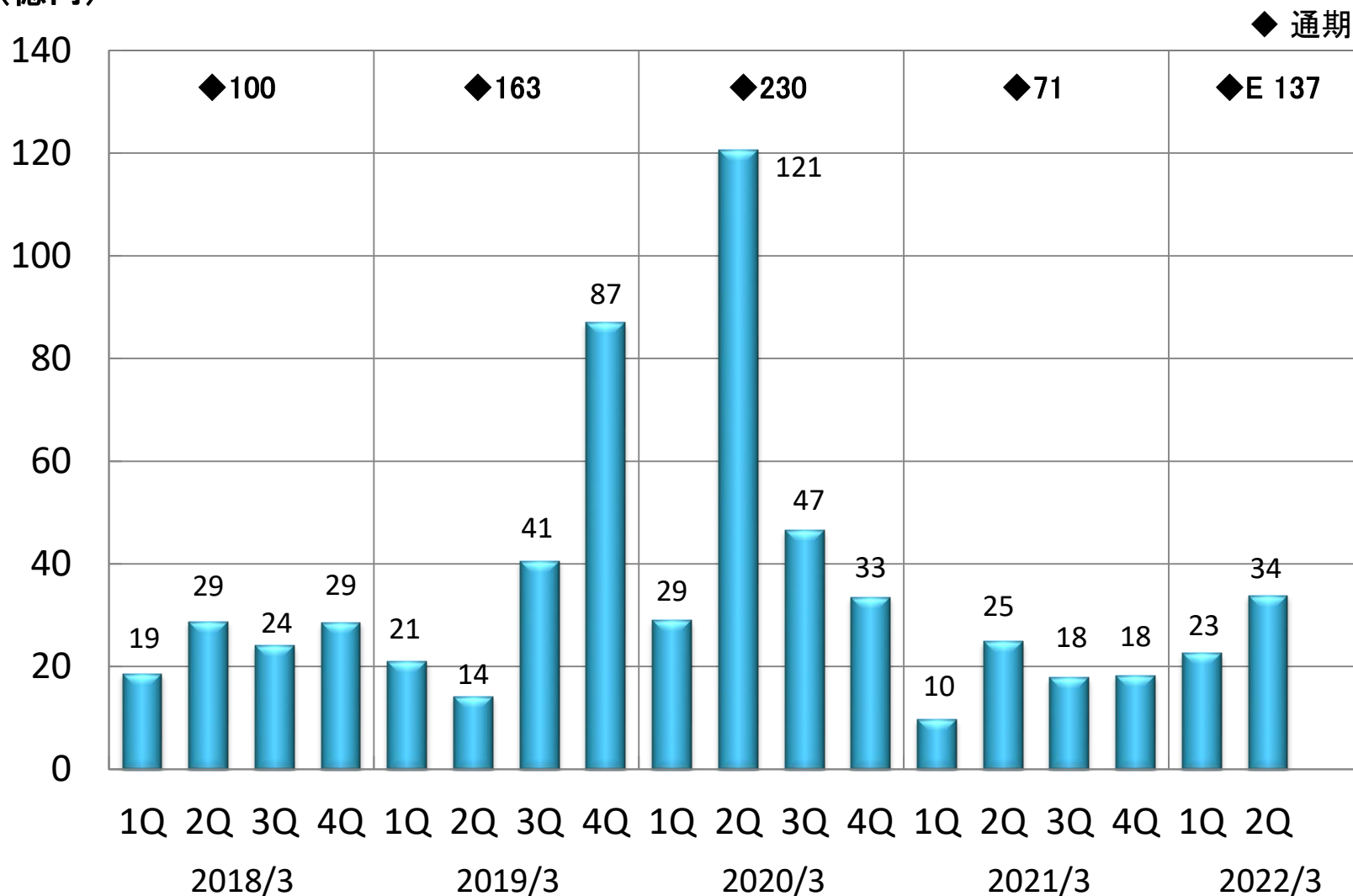
中華圏売上高

(億円)



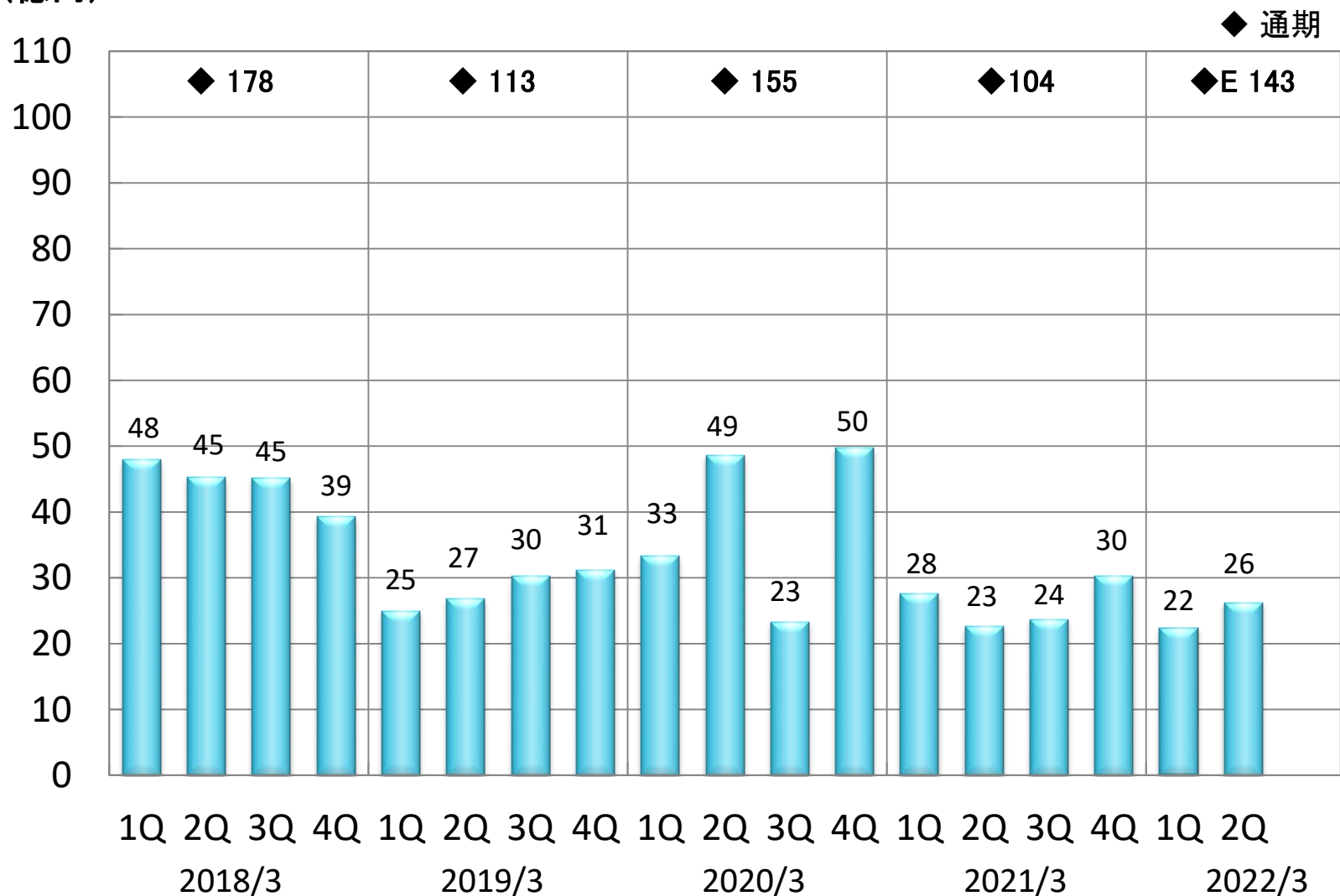
その他地域 受注高

(億円)



その他地域 売上高

(億円)



第76期（2022年3月期）上期経営概況



2021年11月5日

株式会社小森コーポレーション

代表取締役社長(CEO)

持田 訓

1. 76期上期実績と下期計画
 - 1)中国国際展示会のご報告
 - 2)部品供給ひっ迫の影響と値上げについて
 - 3)各地域市場動向
 - 4)上期受注売上結果と下期計画

2. 76期重点課題の進捗状況
 - 1)資産売却について
 - 2)第6次中期経営計画の進捗状況

3. ESG(SDGs)対応（社会・環境への取り組み）
 - 1)統合報告書の発行について
 - 2)ESG経営の推進

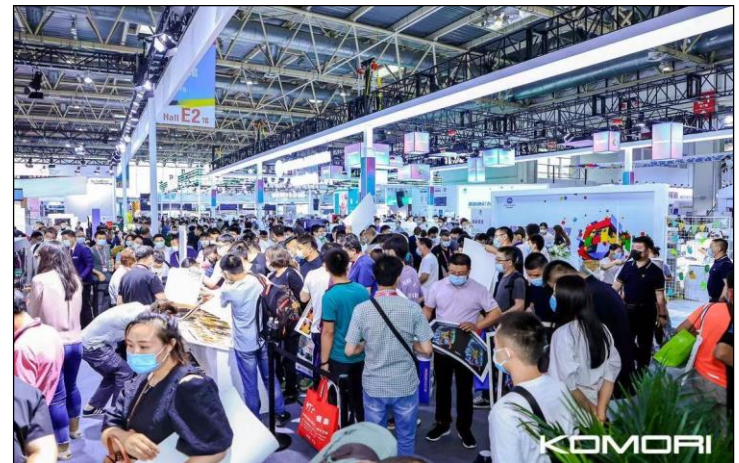
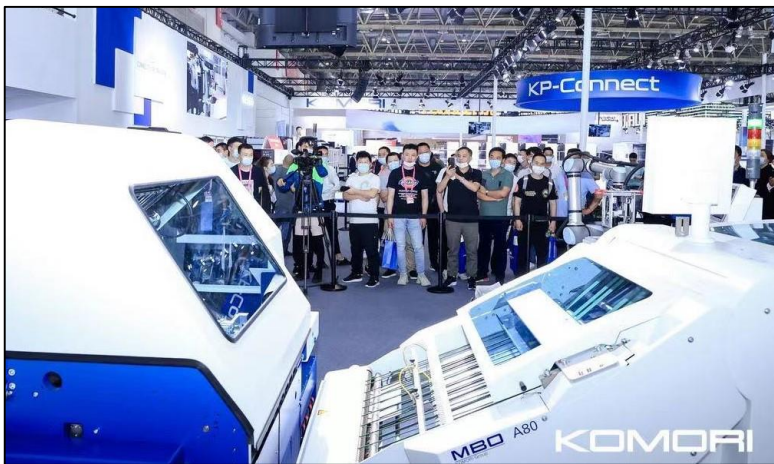
1. 76期上期実績と下期計画
 - 1)中国国際展示会のご報告
 - 2)部品供給ひっ迫の影響と値上げについて
 - 3)各地域市場動向
 - 4)上期受注売上結果と下期計画

2. 76期重点課題の進捗状況
 - 1)資産売却について
 - 2)第6次中期経営計画の進捗状況

3. ESG(SDGs)対応（社会・環境への取り組み）
 - 1)統合報告書の発行について
 - 2)ESG経営の推進

中国国際展示会「China Print 2021」のご報告

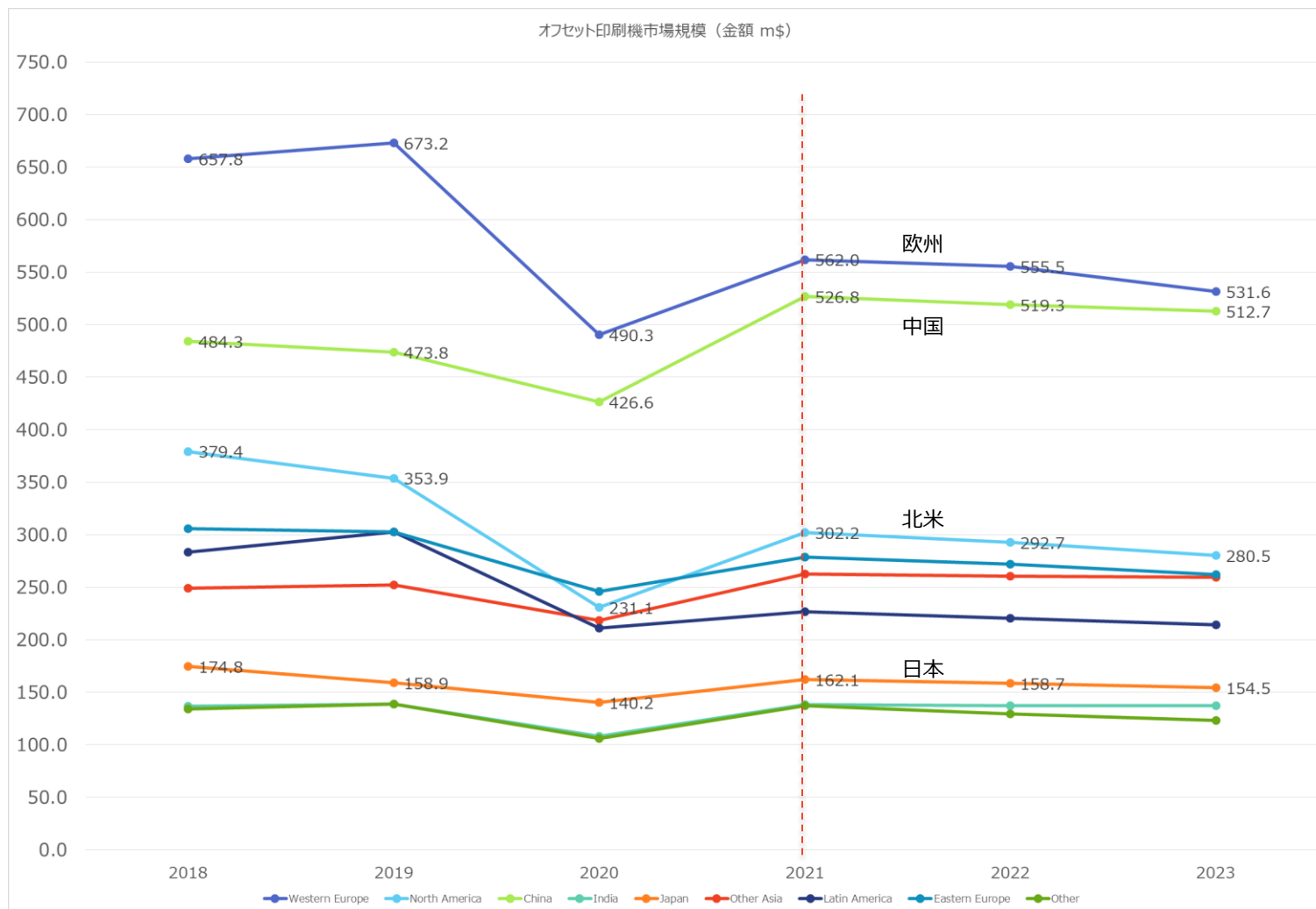
- 2021年6月23日-27日、中国北京で印刷機の国際展示会『China Print2021』に参加
- 来場者数：136,338人（5日間）
- 会場での直接の商談に限られるため、当社経営陣はテレビ会議を活用してリモートで対応し、多くの商談をクローズ。
- 今回の展示会では昨年から当社グループに加わったMBO社製品の販促も進み同社買収時に想定したシナジーを実現。



部品供給ひっ迫の影響と値上げについて

- 2021年10月15日に株式会社小森コーポレーションは、印刷機の価格改定を発表しました。
- **価格改定**
 - 昨今、資材価格高騰に加え、物流費・人件費の上昇が続いております。当社では、印刷機を始めとする製品を市場に対して安定的に供給するため、製造工程における生産効率の改善や経費削減などのコスト削減を継続し、製品価格の維持に努めてまいりましたが、企業努力だけでは製品価格を維持する事は困難な状況であり、価格改定を実施いたします。
- **納期遅延**
 - また、国内の半導体メーカーの火災や新興国での新型コロナウイルスによるロックダウンによって生産停止となるなどの影響により、電気部品は入荷の遅れや調達の困難な状況となっております。このため、他業界と同様に当社におきましても製造が遅延し、平時より多くの製品納期を要しております。
- **経営数字への影響**
 - 価格改定：来期以降徐々に営業利益の改善
 - 納期遅延：売上15億円減

オフセット印刷機市場規模予測（金額） 2020年為替換算 106.775円/\$



出典：Smithers

地域	76期上期（2022年3月期）の状況	下期及び今後の見通し
<p>日本</p>	<ul style="list-style-type: none"> • コロナ感染症の影響を受け業界の売上減少傾向が続いているがW2Pの仕事量は徐々に増加。 • 効率化に向けた事業の再編により二極化。 • 印刷機市場の導入状況は前年比80%。補助金を活用した設備投資は採択での設備合意比率は50%強と過去最高となった。 • 厳しい市場環境の中でROI提案など付加価値戦略でシェアを拡大した。 	<ul style="list-style-type: none"> • 材料の高騰で原価が上がり収益は厳しくなる見通し。 • コロナ感染者が減少傾向ではあるが業界は引き続き事業再編が加速する。 • 下期は補助金採択の導入が貢献し通期受注は前年比114%の見込み。設備投資は人口が多くビジネスが動いている主要都市に絞られ、地域の二極化が進む見通し。
<p>北米</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 他国に先駆けたワクチン接種の進展,200兆円の財政出動背景に商印出荷高は21年3月には7B\$まで急回復しコロナ禍前と同水準となった。 • 21年4月以降の感染再拡大による供給制約で21年7月は商印出荷高が低下する中で出版領域の設備合理化および好調なパッケージ領域での設備更新が堅調で上期売上は前年同期比263%となった。 	<ul style="list-style-type: none"> • マクロの状況としては、消費者物価指数(CPI)は30年ぶりに5%を超え、インフレの鎮静化には数年を要する見方が優勢。米国の金融政策は転換が予測され、景気の先行きは不透明感が強まりつつある。 • 売上は上期好調な受注活動により10月時点で既に計画の70%まで見通しが立っており、下期売上では100%、通期売上では前期比143%の見込み。
<p>欧州</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 夏以降のコロナ感染の再拡大で印刷物需要はコロナ禍前への回復が見えず、雇用維持/融資支払猶予等の支援打切りで企業淘汰進行中。 • 売上は前年同期比116%、受注は回復が始まり、新型GL40アドバンス機での設備合理化の取組み、イタリアの設備投資支援、東欧のEU助成金で設備投資が旺盛で受注は前年同期比116%となった。(※売上・受注ともにMBO増加部分を除く) • 食品や医薬品需要が旺盛で売上台数の22%、受注台数の26%がパッケージ向け。 	<ul style="list-style-type: none"> • パッケージ、各国の設備投資支援やEU助成金を活用した商談が活発。総額7500億€の復興基金の予算執行が本格化する22年に向けて設備需要が持続すると予想。 • 半導体など部品供給不足による納期遅れがリスクであるが、下期は前年同期比180%、通期でも142%の売上達成を目指す。(MBOを含んだ前年同期売上は下期見込みで151%、通期見込みで156%)

地域	76期上期（2022年3月期）の状況	下期及び今後の見通し
中華圏	<ul style="list-style-type: none"> • 昨年下半年以降のコロナ禍からの回復と投資活動の再開と他地域のロックダウンが続く中で中国の製造業の受注が増加し関連する印刷物も増加したことが活況の要因の一つ。 • 6月に北京で中国最大の印刷展示会を開催。多くの受注を獲得し上期は前年の落ち込みを取り戻す勢いで受注も売上も好調。 • 8月の中国国内のデルタ株拡大による移動制限、および9月から急速に広まった各省の電力供給制限等により印刷会社の稼働不安が生じ、設備計画にも影響が出始めている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 労働力不足、賃金高騰による印刷工程の効率化を追求する傾向は今後も続く見込まれ、ワンパスソリューション機や44"/46"などの高効率サイズへの需要が見込まれる。 • 機械の大型化、商業印刷会社でパッケージ需要の期待から多色化傾向(4色機→5色機以上)が継続の見通し。 • 電力供給制限により週の1/3以上稼働停止になる顧客もあり、この状況が当面は続くため影響を注視している。 • 世界的な部品供給不足に伴い、受注済み案件の出荷遅れや納期調整が10月以降増加していく。 • 全体的には設備過剰感があり、資材高騰、電力制限に加え不動産会社の経営危機など先行き不安要因から、設備投資はペースダウンが予測される。
その他	<p>【インド】</p> <ul style="list-style-type: none"> • コロナ第2波により、Q1は大幅に出遅れたがQ2より経済活動が再開し受注が進んでいる。大型機の設備投資が進んでいる。 <p>【韓国】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 合理化投資が堅調でGL-37+Cや両面機のSP、RPアドバンス機の受注が好調。 <p>【アジアパシフィック】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 各市場のロックダウンにより受注が遅れたがシンガポール、マレーシア、フィリピンなどが徐々に回復しているもののコロナ前の状況までは回復していない。 	<p>【インド】</p> <ul style="list-style-type: none"> • パッケージ領域の商談は継続して見込みあり。また政府関係の入札案件も数件あり、当面はこの2つに絞られる。 <p>【韓国】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 韓国経済は外需堅調・内需落ち込みの図式は続くものの、下期は上期と同様のペースを維持する見込み。最低賃金の上昇やオペレーター不足による合理化設備として特に両面機のRP商談が活発傾向。 <p>【アジアパシフィック】</p> <ul style="list-style-type: none"> • コロナ感染者数の減少にともない、各地域とも概ね3Qで国内の移動制限を解除、4Qで国外からの入国規制が緩和される方向で内需は3Q、外需は4Qから回復基調に入り、コロナ前の状態に戻るの77期以降の見込み。

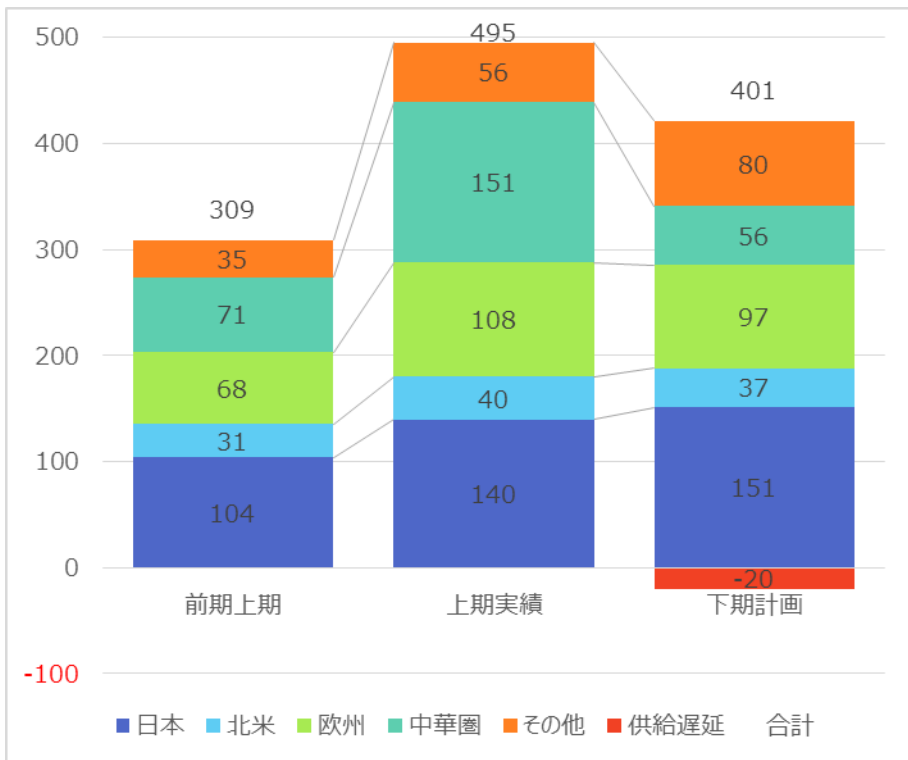
事業	76期上期（2022年3月期）の状況	下期及び今後の見通し
証印事業	<ul style="list-style-type: none"> 電子マネーが話題にはなっているが紙幣印刷への需要は引き続き堅調で各国で新工場建設プロジェクトは進んでいる。 各国の紙幣印刷機の入札は、国家予算の配分でコロナ対策が優先され入札は遅延している。但し、入札を中止にした国は無く、徐々に入札プロセスを再開し始める国が出てきている。 コロナの影響で搬入に遅れが出ていたが各国の入国条件に従い、搬入作業を実施し、WEBシステムを用いた証印機の遠隔納入など顧客の協力を得ながら、確実に搬入・検収を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> アジアを中心とした、当面の設備投資は底堅いものとみており大型商談が計画されている。引き続き確実な受注を目指す。 コロナ禍の中で搬入・検収を遅滞なく進め、顧客の期待や信頼に応える事が課題。 機械は24時間フル稼働が要求されるため機械納入後のサービスメンテナンスなど付加価値向上を進める。
PE事業	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でDX化の動きが加速したことにより、データセンター向けサーバー用途、5G基地局向けMPUが活況。 半導体基板(FCBGA)での需要が世界的に伸長しており、真空穴埋め印刷機の引合が増加。 他方、グラフィック、アート系(芸術・美術)は展示会などの集客困難な状況が継続しているため、製販、資材販売が低迷。 	<ul style="list-style-type: none"> 半導体基板(FCBGA)市場の活況は今後も継続する見通し。 自動車市場において、EUを中心に脱炭素化、EV化の流れが加速。これにより電子部品搭載数の急増が見込まれており、積層セラミックコンデンサ(MLCC)の製造向けにギャップレス同期型スクリーン印刷機の需要が拡大する見通し。 各国の経済活動、行動制限解除により、アート系の活動再開による需要拡大を見込む。

- ◆ 上期は新型コロナウイルス感染症の影響から急回復し受注売上ともに大幅な増収
- ◆ 下期は部品供給ひっ迫による納期遅延により受注の低下を見込むが売上は増収を目指す

受注高

上期実績：495億円（前年同期比160%）
 下期計画：401億円（上期比：81%）

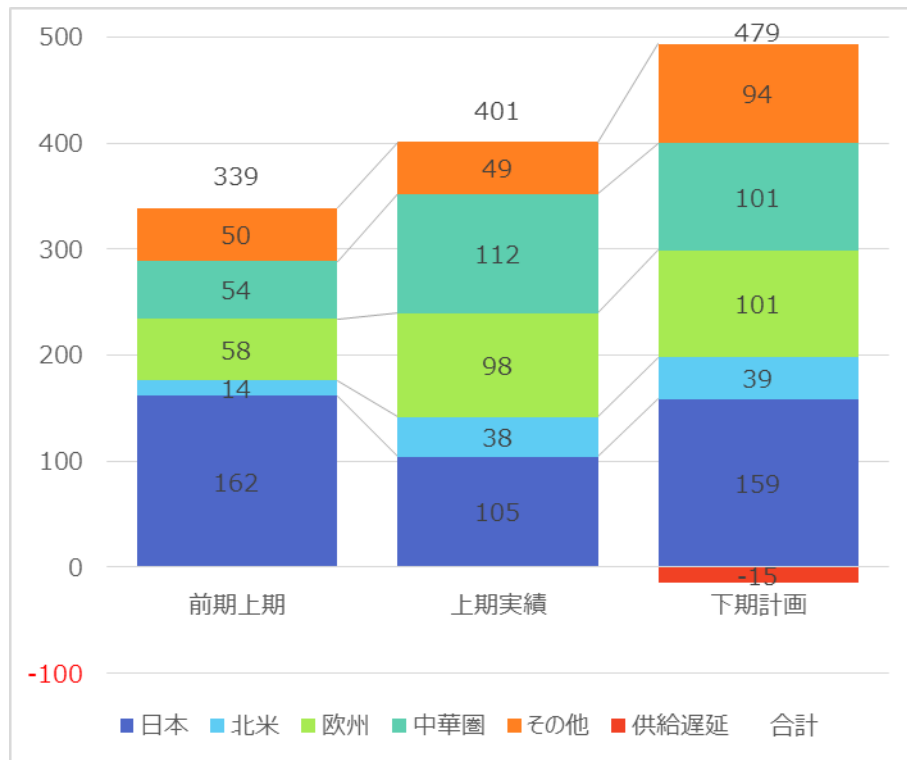
(億円)



売上高

上期実績：401億円（前年同期比118%）
 下期計画：479億円（上期比：119%）

(億円)



1. 76期上期実績と下期計画
 - 1)中国国際展示会のご報告
 - 2)部品供給ひっ迫の影響と値上げについて
 - 3)各地域市場動向
 - 4)上期受注売上結果と下期計画

2. 76期重点課題の進捗状況
 - 1)資産売却について
 - 2)第6次中期経営計画の進捗状況

3. ESG(SDGs)対応（社会・環境への取り組み）
 - 1)統合報告書の発行について
 - 2)ESG経営の推進

資産売却について

- 事業体質強化策の一環で、事業所統合による効率化を推進しており、その結果2021年8月に土地を売却し固定資産売却益 3,174百万円が発生。
- 小森グローバルパーツセンター及び関宿テクノセンターはつくばプラント（茨城県つくば市）へ移転（2022年予定）。
- 事業所統合メリットにより運営コストの最適化を図る。

（売却資産の情報）

売却資産の名称	事業用地（小森グローバルパーツセンター、 関宿テクノセンター）
所在地	千葉県野田市桐ヶ作210
資産の内容	土地 56,119.52㎡
譲渡益	3,174百万円
売却前の用途	倉庫用土地 及び 事務所用土地

※譲渡価額及び帳簿価格については、譲渡先との取り決めにより控えさせていただきます。

第6次中期経営計画の進捗

事業	施策
コア事業 オフセット事業	<ul style="list-style-type: none"> 国内市場の補助金活用受注の推進、国内ソリューション提案の成功事例の海外への展開 GLX-40/GL-40アドバンス機の海外全市場への導入とパフォーマンスの実証 北米・欧州市場での[Connected Automation]とROI提案を軸とした販売 中国、インド市場での販売体制の強化とMBOとの販売シナジー効果 KP-Connectによる他社機器も含む見える化による競争優位の実現 パッケージ機の多色化、合理化、色替え準備時間削減等での商品競争力強化と拡販
コア事業 証印事業	<ul style="list-style-type: none"> 欧州・アジア圏を中心に各国から継続的な入札獲得と安定受注の取組 キャッシュレスの普及が進むが紙幣の増産傾向も引き続き拡大⇒受注への提案力強化 稼働率の最大化、銀行券デザインの拡張性を追求した差別化提案の強化 サービス契約等による証印PESPビジネスを拡大する
重点事業 DPS事業	<ul style="list-style-type: none"> IS29の着実な販売によるリカーリングビジネスの拡大（日本、欧米市場） コロナ禍による一時的な需要の落ちこみ対策の実行（日本を含む4拠点でのマーケティング推進） 中国国際展示会でLOIを受領、来春に納入を予定（NS40）

第6次中期経営計画の進捗

事業	施策
PESP サービス事業	<ul style="list-style-type: none"> • 提案型修繕を戦略的に推進 • お客様にとって効果の大きい工事の提案およびOne-Day Checkによりパック化した工事を受注 • 保守ビジネスのリカーリング化に向けパーツ交換方式メニューの充実 • 顧客対応力を高めるための意識改革とフローの確立 • 海外対応力の向上のため本社と現法の連携を強化し顧客課題を迅速に把握 • 海外証印保守の強化のため3種類のメニューを定型化し受注拡大のサポート
新規事業 PE事業	<ul style="list-style-type: none"> • MLCC等の電子部品製造向け専用製造装置の拡販 • 半導体基板（FCBGA）の生産性向上に対応した真空穴埋め印刷機と自動化（マテハン）をターンキーソリューションとして提案 • 高精細印刷技術（±5μm精度）を実現した「グラビアオフセット印刷機」での半導体実装の実現とPCB/FHE小型化のための微細化配線上での実装技術の実現 • 海外販売（中華圏、欧米）の組織・人員強化と市場開拓の推進
新規事業 MBO事業	<ul style="list-style-type: none"> • グループのシナジー効果による効率化への取り組み • MBOと小森の営業地域が重複するフランス/中国/インド/英国で販売会社を統合 • 中国での中国国際展示会での販売のシナジー効果の発揮 • 米国市場でのMBO社の提案営業による販売拡大と小森アメリカとの販売協力強化の実行

1. 76期上期実績と下期計画
 - 1)中国国際展示会のご報告
 - 2)部品供給ひっ迫の影響と値上げについて
 - 3)各地域市場動向
 - 4)上期受注売上結果と下期計画

2. 76期重点課題の進捗状況
 - 1)資産売却について
 - 2)第6次中期経営計画の進捗状況

3. ESG(SDGs)対応（社会・環境への取り組み）
 - 1)統合報告書の発行について
 - 2)ESG経営の推進

統合報告書の発行について

- 従来のAnnual Reportと環境・社会報告書に代えて、中長期的な価値創造への取り組みについてステークホルダーの皆様に財務・非財務情報の両面から開示する事を目的に、本年度から「統合報告書」を発行した。
- 統合報告書では、印刷関連業界の事業変化と当社の対応、第6次中期経営計画のテーマと取り組み、事業戦略、価値創造ストーリー、企業理念の「顧客感動企業の実現」に向けた様々な取り組み、およびESGに対する取り組みを体系的にお伝えする。



A3版

https://www.komori.com/ja/jp/information/download/assets/pdf/211022_komori_corporate_report_a3.pdf

A4版

https://www.komori.com/ja/jp/information/download/assets/pdf/211022_komori_corporate_report_a4.pdf

当社のESG経営の取組み状況

区分	テーマ	目標	これまでの実施項目
E: 環境	気候変動への対応 資源循環型社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> Co2排出量 2030年度50%削減 2020年度30%削減 (2010年度比) 	<ul style="list-style-type: none"> Co2削減 ▲31%達成 (2020年度) 電力調達先の見直し、省電力設備導入・稼働電力監視等のCO2削減活動の継続 Green-PJ活動の推進 化学物質管理体制の強化、環境配慮製品の開発
S: 社会	働き方改革の実現 ダイバーシティの推進	<ul style="list-style-type: none"> 従業員エンゲージメントの向上 	<ul style="list-style-type: none"> 小森流働き方改革推進 人事制度改定、階層別教育、リモートワーク等
		<ul style="list-style-type: none"> 地域社会との共生 	<ul style="list-style-type: none"> 陸上競技部員による小・中学生との交流
		<ul style="list-style-type: none"> サプライヤーとのパートナーシップ 	<ul style="list-style-type: none"> グリーン調達推進 会社方針等の重要情報共有説明会
G: ガバナンス	コーポレートガバナンスの強化	<ul style="list-style-type: none"> 透明性の確保 意思決定の迅速化 チェック機能強化 コンプライアンスの確保 	<ul style="list-style-type: none"> 取締役の専門性を鑑みた体制作りと監督機能強化 (スキルマトリクス開示、社外取締役1名増員) 政策保有株式の縮減 サイバー攻撃による情報漏洩対策

・部門横断的な活動組織の発足

KANDO-PJ (Green-PJ) 、SDGs-PJを中核として活動を推進

グリーンプロジェクト (環境対策)

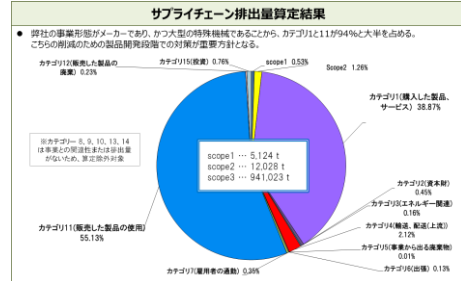
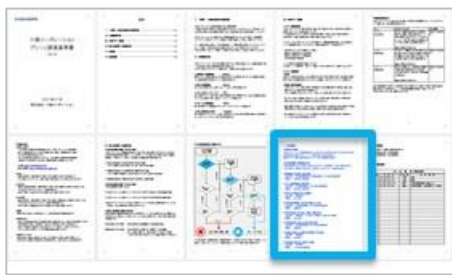
エココミュニケーション

エコファクトリー

持続可能性の達成

ESG推進、企業価値向上

エコファクトリー
環境に優しい生産・設備



環境省グリーンバリューチェーンプラットフォームでの情報開示

グリーン調達基準書を改訂し 管理体制強化

Green-PJ

エココミュニケーション
環境に優しい企業活動

エコプロダクツ
環境に優しい製品開発

- ・ 気候変動への戦略
- ・ 環境情報の開示
- ・ グリーン調達の推進

- ・ 気候変動への施策
- ・ 再生エネルギーの導入拡大
- ・ 省エネ、省資源、資源循環

- ・ 次世代モデルの開発支援
- ・ 環境貢献製品の開発
- ・ 環境要素技術の開発

エコプロダクツ



リスロンGX/Gアドバンス
世界最高クラスのROIを提供する印刷機



※ 当資料に含まれている業績予想等は、本資料の現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり
実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

※ 当資料では表示未満単位を四捨五入して表示しており、内訳と合計が一致しない場合があります。